

「プーチン大統領と三原じゅん子議員の発言」

2015年03月23日

最近、驚くような発言を聞く。まず、プーチン大統領がテレビで「ロシアはクリミア情勢が思わしくない方向に推移した場合に備えており、核戦力に臨戦態勢を取らせることも検討していた。それは起こらないだろう、とは考えていた」と発言したという。欧米から経済制裁を受けて、苦しい中、国民に向けた強いロシアを演出するための発言かも知れないが、世界にとって恐ろしい発言である。日本は、広島と長崎の被爆体験から、原爆の恐ろしさを知っている。国連常任理事国の米国、ロシア、イギリス、フランス、中国は核を保有している。インド、パキスタン、北朝鮮なども保有している。イスラエルは公表していないが、保有していると見られている。核拡散防止条約によって、規制はかけられている。米口間で核軍縮は少しではあるが、進められていた。しかし、今回のプーチン大統領の発言は、核の持つ力を再度、世界に呼び起こした。北朝鮮は米国に対峙するため、条約を無視して核開発を行い、国際的な発言権を増したことは事実である。イランは核開発を推進しようとしている。イランが持てば、サウジアラビアも核保有に向かうだろう。核不拡散体制は崩壊していく。核をカードにした外交が展開され、米ソ冷戦時代に逆戻りし、更に混迷を深めていくのではないか。各国が力を背景にして「国益」を計る外交に走れば、小さい国の国民は痛めつけられるだけで、平和は遠のく。

気になることは、プーチン発言に対し、国際的な非難の声が小さいことである。殊に、日本は被爆国として、強い反対の主張をすべきである。逆に安倍政権は、原発から出る多量のプルトニウムを持っているので、核保有を言い出すのではないかと戦慄さえ覚える。プーチン発言を受け入れることは断じてできない。

今一つ驚いた発言は、自民党の三原じゅん子議員の「八紘一宇」発言である。参議院予算委員会で下記のように語ったという。「今日紹介したいのが、日本が建国以来大切にしてきた価値観、八紘一宇だ。（略）八紘一宇という根本原理の中に現在のグローバル資本主義の中で、日本がどう立ち振る舞うべきかが示されている。」「八紘一宇の理念の下に（略）経済及び税の仕組みを運用していくことを確認する崇高な政治的合意文書のようなものを、安倍首相がイニシアチブを取って世界中に提案していくべきであると思う。」時代錯誤も甚だしい仰天する発言である。

八紘一宇の語源は、8世紀の『日本書紀』の編纂者の創作である、初代の神武天皇が即位の前「八紘を掩（おお）いて宇（いえ）にせん」と抱負を述べた言葉からきている。八紘は八方の地の果て、つまり世界のことで、宇は家を意味している。天皇の威光が世界を一つの家として統治するという理念である。満州事変と満州国の建国の頃から、盛んに用いられ、アジア侵攻を正当化する、侵略戦争の旗印になった言葉である。

戦後は一貫して、当然ながら、八紘一宇は否定された。中曽根康弘元首相は「戦前の限定された意味が非常に強くあり、私自身はそういうものとはとりません」と言っている。ナチスの政治姿勢に倣ったらどうかと言った麻生太郎財務大臣でさえ「こういった考えをお持ちの方が三原先生みたいな世代におられるのに、ちょっと正直驚いたのが実感だ」とコメントしている。かつてなら、即座に議員辞職に追い込まれたら。さして、非難の声が上がらないことが不気味である。歴史的な文脈を無視した発言が堂々となされている日本の右傾化した現在の政治状況に危惧は深まる。殊にアジア諸国からは、日本の若い政治家の中に三原氏のような人がいることに恐怖を感じただろう。